



児嶋喜彦

Q：新たに新設する「登園後に体調が悪くなったこどもの対応可能な病児・病後児保育室」の進捗状況と今後の取組はどのようになっていますか



A：登園後のこどもの体調不良時に、保護者に代わって病児・病後児保育室のスタッフが「こどものお迎え」「診察の付き添い」「病児保育」までのサービスを行う病児・病後児保育室を、7月1日から駿河区の「なでしこ保育園（小鹿1丁目）」に新たに開設します。今後については、新たに開設する病児・病後児保育室の利用状況や課題や問題点を検証し、送迎サービスの範囲の拡大等を進めます。



杉山真裕子

女性特有の生理による不調やPMS、また更年期といった健康課題は、個人の体質や我慢すべきことではなく、社会全体の理解と支援を必要とする「公共の健康課題」です。

Q：生理などに伴う心身の不調への理解を深める必要があるが、市として取り組む考えはありますか。

A：今後、2025年度に実施する男女共同参画に関する市民意識調査で女性特有の健康課題の認知状況などを把握し、課題の洗い出しを行います。その上で、好事例を学校や企業へ発信するなど、本人と周囲の理解を深めるための有効な方策を講じていきます

小山 悟

本年4月より、民間出身で中島小学校の校長をされていた中村百見氏が、静岡市の教育長に就任しました。



Q：教育長は、こどものための授業づくり・学校の働き方改革・教育環境整備について、学校現場からの視点をふまえてどのような展望を考えていますか。

A：【教育長】社会の変化に対応するため、子ども主体の「自ら考え、学び、仲間と共に深める」学びへの転換が必要です。目指す学校像は「自分らしく学び、” やってみたい” が広がる学校」です。

堀池 昂平

清水区の東部について、経済産業省の地域経済分析システム「RESAS」で検索を行うと衣料品店が1店舗しかありません。人口5万5000人いる地域であるため、もう少し衣料品店があってもおかしくないはずとの思いから調査を実施し、商業条例が原因の一因になっているのではと考えました。

Q：商業環境の改善の観点から、各地域の買い物環境の実情に合わせて「静岡市良好な商業環境の形成に関する条例・指針」（商業条例）の店舗面積の見直しについて考えはありますか。

A：買い物環境の利便性の低下を招いている可能性もあるため、見直しを検討します。



志政会 しせいかい だより

令和7年7月発行

第40号

発行/静岡市議会 志政会
編集/志政会 広報部
〒420-8602
静岡市葵区追手町5番1号
TEL 054-653-3412
FAX 054-653-3412



志政会代表質問

令和7年6月議会が6月18日～7月10日まで会期23日間で開かれ、佐藤成子議員が代表質問を行いました。

質問では、1. 難波市長が2年間行ってきた市政変革について 2. 第4次総合計画の見直しについて 3. 社会課題解決について問い質しました。（以下質問抜粋）



1. 第4次総合計画の見直しについて

Q 4次総の見直しにおいて、市長はどのような方針で政策の見直しを行っていきますか。

A <市長>市政変革研究会において、不都合な現実を直視し、分析をしてきました。その中で、最も根深い市政の課題が人口減少問題です。その原因の根底に、若者にとって魅力的な仕事がないことや、家賃が高く市内に就職した人も市外に移り住んでしまうことが挙げられます。しかし4次総では、静岡市がとりわけ厳しい状況にあることの認識がなく、なぜこのような状況に陥ったのかという分析がありません。

根拠に基づき政策を形成し、その政策を実現する道筋も明らかにした計画となるよう見直しを行っていきます。

2. 女性の正規雇用率が低い状況について

Q 女性の正規雇用率が低いことに対して、市はどのような取組みをしていますか。

A 令和3年度に本市で実施した「女性の労働実態調査」において、非正規雇用として働く女性に希望する働き方をたずねたところ、38.7%が正規雇用として働きたいと回答しており、また、非正規雇用として働いている主な理由については、25.4%が「正規雇用では家事・育児との両立が困難であるため」と回答しています。

市としては、現状、女性に偏りがちな家事・育児の負担を男性も担うことや、仕事と子育てを両立できる環境の整備を進める必要があると認識しています。具体的な取組の一つひとつ積み重ねていくことで、女性の正規雇用として働くことのできる環境を整え、女性の正規雇用率の増加につなげていきます。

3. 若者の雇用対策について

Q 若者の雇用対策の一つであるデジタルエンタテインメント企業誘致に向けて、どのような取組みを行っていますか。

A 本年4月、業界紙に静岡市の企業誘致の取組などを掲載し、認知の向上を図りました。そして、5月には、首都圏の企業を招聘し、1泊2日の「市内視察ツアー」を実施しました。

参加した首都圏企業からは、「学校の先進的な施設や学習環境の質の高さを感じた」や、「産業・観光・歴史などポテンシャルが高く、生活がしやすい街」といった前向きな評価が示され、手ごたえを感じています。令和7年度中に、こうしたツアーを何度か実施していくとともに、参加した企業などへの誘致活動を行い、将来のデジタルエンタテインメント企業の集積につなげていきます。

4. 自治会・町内会支援について

Q 自治会・町内会支援について、令和7年はどのような取組みを行っていきますか。

A 「負担の軽減」や「担い手の確保」に向けた取組として、令和6年度から、企業や2つの自治会との共創により、スマートフォン等を活用して、効率的に役員や会員間で連絡・情報共有をすることができるシステムの実証実験を進めています。令和7年度は特性の異なる自治会に協力を呼びかけ、現在は5つの自治会に拡大し、各区で実証を進展させています。

会議への参加や各種委員の選出など、市から自治会への依頼は年間100余り存在し、負担の一因となっていることから、こうした依頼について改めて必要性を精査するよう各局に指示しており、今年度中に見直しを行う予定です。

「学びの多様化学校」を開校します

静岡市は、不登校の中学生を対象とした「学びの多様化学校」を県内で初めて整備し、来年4月に開校します。市内の令和5年度の不登校児童生徒は1948人で、令和元年の1177人より1.65倍に急増しています。うち中学生が6割超を占め、小学生に比べて長期化しやすいため、今回開校する学校は中学生が対象となっています。学びの多様化学校では、不登校の児童生徒に配慮した特別な教育課程を編成でき、市教委では、授業時間を減らしたり、朝の授業開始時間を遅く設定したりすることを想定しています。



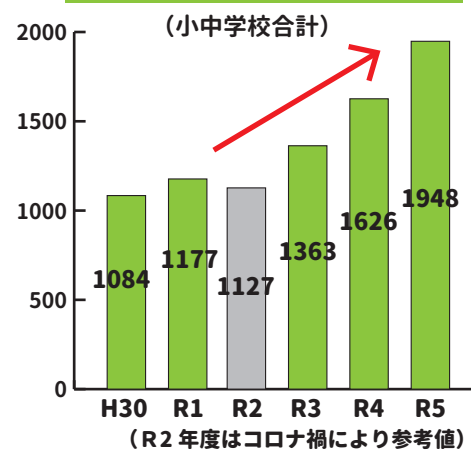
【学びの多様化学校 概要】

- ・開校日 令和8年4月（予定）
- ・設置場所 新通小学校 東校舎3、4階
- ・定員 中学校3学年×各1クラス（16人）

新通小学校（葵区駒形通）



静岡市の不登校児童生徒数の推移



CHECK!

「学びの多様化学校」とは

学びの多様化学校とは、不登校児童生徒の実態に配慮して、特色ある教科を新設したり、総授業時間数を削減したりするなど、特別の教育課程を編成して教育を実施している学校です。一般の小学校、中学校、高等学校等と同じく卒業資格を得ることができます。

「学びの多様化学校」の主な効果

- ・子どもの社会性の育成につながる
異学年交流や地域の人々、自然との触れあいを通じて社会性の育成につながる
- ・登校へのハードルを下げられる
始業を遅くしたり、教育課程の編成を工夫することで学校に行きやすくなる
- ・きめ細やかな支援を子どもにできる
多くの職員が児童生徒の支援に携わることで児童生徒の小さな変化や成長に気づける



パラスポーツ優先の屋内運動場を整備します

清水区の庵原球場（ちゅ〜るスタジアム清水）の駐車場に、パラスポーツで優先利用できる屋内運動場を整備します。清水区庵原地区には、トップアスリートがトレーニングする「清水ナショナルトレーニングセンター」や、「IAIパラスポーツパーク」があり、またICが近くアクセス環境も整っていることから、「ユニバーサルスポーツの聖地」を目指していきます。

令和7年度 設計
令和8年度 整備工事
令和9年度4月 供用開始（予定）



動物愛護センターを再整備します



イメージ図

静岡市動物愛護センターは、昭和50年代に建設された当時のままの状態であるため、動物の保護施設としての設備等が整っておらず、市民にとっても親しみにくい施設となっています。

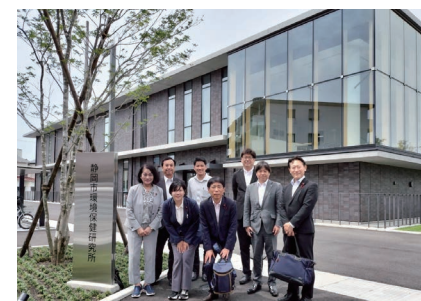
そのため、動物愛護センターを現在の葵区産女から林業センター跡地（千代）に移転し、再整備します。新しい施設では、見学エリアと管理エリアに施設が区別され、見学エリアでは動物とふれあうことができます。またドッグランも整備されます。

令和8年3月～11月 林業センター解体
令和8年3月～9年11月 再整備の設計・工事
令和9年12月 供用開始（予定）

市内視察を行っています



「教育支援センターふれあい教室」を視察
不登校支援の現状を調査



今年4月に新築移転した「環境保健研究所」を視察



JR清水駅近く（江尻）に整備された「新駿河湾フェリーターミナル」を視察



今年4月にリニューアルオープンした「河岸の市いちば館」を視察



今年3月にオープンした「JCHO清水さくら病院」を視察

静岡市の災害対策が進められています

「巴川浸水情報発信システム」の運用が開始されました

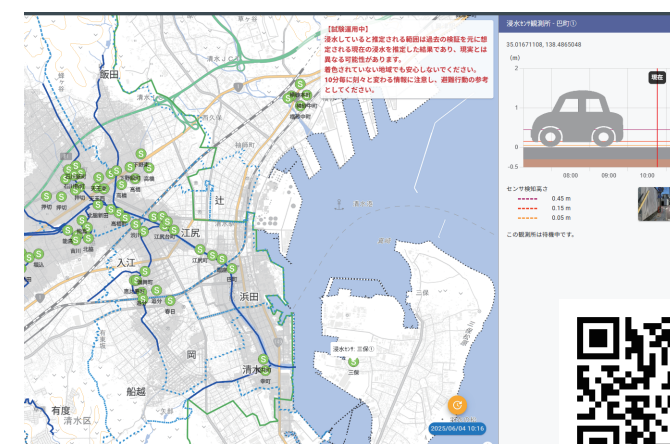
静岡市は、浸水被害が頻発する巴川流域で、現時刻の浸水範囲や浸水深を推定し、ホームページ上で発信する独自システムを運用を始めました。

降雨時の河川水位や雨量実績を用いて、巴川本流や支流、大谷川放水路周辺の浸水状況をシミュレーションし、10分毎に情報が更新されます。浸水しやすい道路117箇所

に5～45cmの浸水を観測できるセンサーが設置されており、シミュレーション精度を高めています。これらを発信することで、「早めの避難の呼びかけ」や排水ポンプ車の配置、アンダーパスの通行止めなどの実施に活用します。

また市では今後、高い精度で予測できる1時間後の浸水状況を公表できるよう気象庁と協議を進めています。

「巴川浸水情報発信システム」イメージ



こちらのQRコードよりアクセスできます

「トイレカー」が導入されました



志政会がこれまで提言してきた「トイレカー」がこのたび初導入されました。男性、女性用と多目的トイレを搭載し、県内で始めて昇降機も整備されています。また水洗式で、タンクには約1,000回分の汚物を貯められます。

災害時だけでなく、花火大会などの大規模イベントや防災訓練等で活用されます。市では今後も複数台導入する予定です。